

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492300130	事業の開始年月日	平成23年12月1日
		指定年月日	平成23年12月1日
法人名	株式会社へいあん		
事業所名	グループホーム「へいあん荻窪」		
所在地	(250-0042) 小田原市荻窪887		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年1月31日	評価結果 市町村受理日	令和2年3月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

へいあん荻窪は、当法人として5箇所目のグループホームということで、設備面では細かな点において、経験を生かした内容となっています。安全確認用カメラを設置するなどの工夫をしている点や中庭スペースを広く取り、菜園では季節の野菜を育てている。今の時期は玉ねぎを植え、春の収穫を楽しみにしております。また、外出支援で季節の花を観たり、車での外出の難しい方も内部のイベントを積極的に開催しお客様に喜んで頂いている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年2月13日	評価機関 評価決定日	令和2年3月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【概要】 この事業所は、東海道線小田原駅西口よりバスで3分、「税務署前」下車徒歩7分の住宅地にあり、2ユニットのグループホームである。設置法人株式会社へいあんは、冠婚葬祭事業とともに県西部を中心に介護事業を展開している。
【理念の実践】 事業所の理念は、1明るく楽しい暮らし、2ゆっくり丁寧なケア、3安心と安全がキーワードである。事業所の玄関は、駐車場によって交通量の多い道路と距離が保たれ、また屋根付き駐車場のあるサイドからも入ることができる。各ユニットには、テレビを中心にソファを置いたリビングと対面キッチンを前にしたダイニングがあり、庭にはベンチと東屋のある散歩コースが造られ、花壇の一面には家庭菜園の玉ねぎが植えられている。各ユニット共、日中勤務する職員を3人以上とし、職員は利用者と一緒にリビングでテレビ体操をしたり、テーブル席でカルタ取りをするなど、利用者と一緒に過ごす時間を大切にしていた。職員は毎朝理念を唱和し、ゆとりある環境の中で理念の実践に努めている。
【医療体制の充実】 事業所は、今年度より看護師が週3日勤務し、利用者の健康管理と主治医との医療連携を支援している。また「住み慣れた事業所で最期まで過ごしたい」という利用者と家族の要望に応じて看取り介護を実践している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム「へいあん荻窪」
ユニット名	みかん（1階）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム「へいあん荻窪」
ユニット名	小梅（2階）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時のスタッフ全員で作成した事業所理念を、毎朝の朝礼、申し送り時に唱和、理念の共有に努めている。	開所時に作成した3つの理念を職員は大切に、毎朝の申し送りで唱和している。管理者は新入職員に、特に利用者の安心と安全を最優先に考えることが信頼関係に繋がると伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動やお祭りなど各種イベントに参加している。ボランティアの方にも参加して頂いたりしている (ハーモニカ・フラダンスなど)	自治会に入会し、隣に住むオーナーと共に自治会の集まりに出席したり、地域の清掃活動や祭りに利用者と一緒に参加している。地域の中学2年生を職業体験として3日間受け入れている。毎年恒例行事となったRUN伴に2名の利用者が参加した。ハーモニカとフラダンスのボランティアが定期的に来訪し、利用者とは交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を、通して入居者の状況の報告介護度などを報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所以来、2ヶ月に1回程度、定期開催しており、ご入居者の状況や運営状況などを報告している。	2か月毎に開催し、利用者と家族、自治会長、オーナー、地域包括支援センター職員が参加し、活動報告と毎回テーマを決めて意見や情報交換を行っている。事業所に来訪しているボランティアを自治会のイベントで紹介したり、行事に利用できる物が借りられるなどの有効な情報交換の場となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小田原市役所高齢介護課や地域包括支援センターしろやまとやりとりを行っている。	高齢介護課には、事故報告などを行っている。また入居後に生活保護の受給者となったケースについて市の関係者と相談し支援している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる具体的な行為は正しく理解し、定期的研修等通じて教育を行っております。安全確保の観点から、玄関の施錠、2階フロア出入り口の施錠を現在行っています。	法人系列の3か所の事業所で「身体拘束」についての研修を行い、全職員が参加している。交通量の多い道路に面していることもあり、玄関とユニット入口は施錠をしている。また夜間の転倒防止のためベッド下にセンサーを置いている。運営推進会議は身体拘束適正化委員会も担い、会議の中で報告し検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は12月に3月（予定）にかけての身体拘束・虐待防止研修を全スタッフ受講、ミーティングの際、虐待に繋がることはないか話し合っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については現在利用実績なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、契約書、重要事項説明書、預かり金管理及び日用品購入等代行についての約定書、等について十分な時間を取りご説明、ご理解いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに要望、意見を頂いている、又、運営推進会議など	運営推進会議に利用者と家族が参加している。また家族の面会時に、入居者とのトラブルからフロアを変更してほしいという要望を聞き、対応した。3ヶ月に一度程度、家族に「便り」を出している。	家族との交流を増やすため、年1回でも家族も一緒に参加できる行事又は家族会などの開催を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回フロアミーティングを行い意見や提案を聞く機会を設けている。	各フロアミーティングを毎月1回夜7時から行っている。開所時からの職員も多く、職員間の関係は良い。管理者は事務室で職員と1対1になる時間を大事にし、職員の意見を聞く機会としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成27年4月にて、介護職員処遇改善に繋がる賃金体系見直しを実施、また職業能力等級にて給与水準を明確化している。		
13	○	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員それぞれが力量に合せた目標を設定、個々のレベルアップを図る環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会への参加、活動等について、理解と支援をして頂いている。毎年RUN伴+小田原に参加、マラソンを通じて相互交流を深めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初の不安を出来る限り緩和できるように、スタッフ全員が笑顔で、お客様の声に耳を傾けることを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等との関係作りは、入居者の安心の生活にも欠かせない条件であると認識し、契約時から信頼関係作りに重点を置いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階で、出来るだけご本人、ご家族の意向を聞きだし、ケアプランに反映するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや食器洗いなどその人が出来ることを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がホームに立ち寄りやすい雰囲気作りに注力している。また、理解いただけるよう努力している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、友人の方々も気軽に面会に来易い環境づくりに努めている。毎回多くの方にご面会頂いている	市内からの入居者が多いため、友人等が来訪している。家族と墓参りや好きな花を買いに出かける方もいる。塗り絵の好きな方が集中し過ぎて立ちくらみを起こすことがあるため、利用者の様子を見ながら声掛けをしている。利用者は、新聞を読んだり、スーパーのちらしを見て楽しんでいる。年末年始などに自宅に泊まる方が多く、「家は寒い」と早く帰ってくる方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性については、日頃から注意深く観察し、適切なフォローで関係作りを支援している。席の配置など		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて本人、家族が気軽に相談声掛けして頂ける関係作りを心掛けている。逆に退去後のご様子もご連絡して頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	月1回のモニタリングや担当制により、一人ひとりの利用者の希望、意向を把握できるような体制をとっている。	アセスメントを丁寧に行い、利用者の理解に努めている。また入浴等の1対1になる時間帯に利用者の思いを聴けることがあり、職員は情報を共有している。利用者の持ち物を家族が持ち帰ったことを忘れてしまう方には家族のメモを見せている。入浴したことを忘れてしまう方には信頼関係のある入居者に言葉をかけてもらい利用者を安心させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	機会ある毎に、管理者、計画作成担当者、又はフロアリーダーからご家族等にこれまでの経過等を聞き取るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握は、スタッフ全員が心がけ、個別サービス記録・申し送りノート、ミーティング等に残し情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングは、各担当者がまとめ、フロアミーティングにおいて検討、介護計画を作成している。	フロア会議でケアカンファレンスを行い、職員は利用者の介護計画を理解してケアを行っている。また計画作成担当者は職員の意見をプランに反映させ、通常6か月で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランの実践状況は、スタッフ全員で個別記録への記入を心掛けている。申し送りノート、横ノート（スタッフ間情報共有用）を利用し、ケアに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応えられるよう、個別ケアの時間を設けるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、訪問マッサージ・訪問歯科等活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診頂けるかかりつけ医として、現在内科と精神科の整形外科、Dr に関わって頂いている。	入居前からのかかりつけ医に家族が付き添い受診している利用者が1名いる。他の方は月2回往診を受けている。また精神科と整形外科、歯科の往診を受けている方もいる。週3日看護師が在勤し、利用者の健康管理と主治医との医療連携を行っている。訪問マッサージを受けている方もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、週3回入居者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーとは、緊密に連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当社の方針はお伝えし、ご理解頂いている。必要に応じて「重度化した場合における対応に関する同意書」の締結等行っている。	重度化や終末期を迎えた時は、「看取りに関する指針」を説明して同意書を作成している。看護師を講師に研修を行っている。看取り介護計画書に従い、この1年間では2名の看取り介護を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員がCPR研修を受講済み、日常の朝礼時にもCPR手順を復唱し、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は8月に避難誘導訓練を実施、3月に消火訓練を実施する予定です。	年2回防災訓練を実施しており、そのうち8月は夜間想定で行っている。水、食料などを3日分とカセットコンロを倉庫に備蓄している。昨年10時間ほど停電したことがあり、カセットコンロを使用した事例がある。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフミーティングなどで周知し、また言い合えるような職場環境に努めている	利用者に対する言葉遣いを互いに注意しあい、また職員同士の会話が利用者にとって不快にならないよう気をつけている。各ユニットの真ん中に全体を見渡せるスタッフコーナーが設置され、書類は書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が気兼ねなく思いを伝えられる雰囲気を作ること、その為にはお客様と信頼関係を築くことを重視している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、お客様のペースに合わせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服をご自身で選んで頂いたり、イベント時には化粧をするなど楽しみを持って頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて、食器洗い、洗濯たたみなど、出来ることは一緒にお手伝いして頂いている。	主菜は朝食と夕食についてはレシピ付き食材を職員と利用者が一緒に準備し、昼食は法人が経営する業者から湯せんで出せるものが届く。ご飯と副菜は職員が準備している。職員は利用者の食事介助をしながら同じ物を食べていた。利用者はホットケーキやお好み焼き会、誕生日のケーキを楽しんでいる。今年度レストランでの外食を予定していたが、悪天候により急遽レストランからのお弁当に変更となった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は毎日チェックし摂取量を把握している。食事形態、分量にも配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、実践して頂けるよう声掛けをしている。ポリデント消毒・重度の方はケア用のスポンジ等を使用している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表を活用し、排泄パターン把握に努めている。	トイレは3ヶ所すべてが車いす対応となっている。利用者の平均介護度2.3ということもあり、ほとんどの方が布の下着を着用し、夜間もトイレ介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳、オリゴ糖など、飲食物の工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調に合わせて入浴をしていただく、希望があれば出来るだけ添うようにしている。	浴室と脱衣所は通常より広く、空調設備や温熱効果のある床張りを使用してヒートショック対策を行っている。入浴剤やゆず湯、しょうぶ湯を提供し、利用者は夕方の時間帯に週2回入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて午睡のすすめや、環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、服薬チェック表を活用している。個別のファイルに処方された薬の内容が常に新しいものが上にくるように綴じられ確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯たたみやテーブル拭きの声掛けにて役割作り行って頂いている。個々の趣味が生かせるよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭やスーパーへの散歩、外出支援を行っている、ご本人の意向にてお墓参りなどご家族の協力を得ながら実施し、定期的に外泊される方もいらっしゃる	ベンチや東屋のある庭を散歩したり、車でカラオケや市内の甘味屋に個別の外出支援を行っている。また、季節行事として観梅やお花見などを利用者は楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、現在施設にて管理しています。買物や外出にて、お好きなものを購入して頂く等の支援を行っている。本人所持は基本ないが、小銭をお持ちの方はいらっしゃる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されるお客様には、本人自ら電話して頂く等、支援している。年賀状も送っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して暮らしていただける居住空間を心がけ、季節感を取り入れた装飾等工夫している。	リビング・ダイニング・廊下などすべてが広く、温度湿度も管理されている。行事の写真や習字、季節の作品などで壁が飾られ、大きな窓からは隣家に咲く満開の蠟梅を眺めることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニングのほか、談話コーナーが設けてあり、独りになりたいお客様の良い居場所となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、出来るだけ使い慣れた馴染みのものを持ち込んで頂いている。（照明も含めて）	居室は、空調設備とロッカーが設置されている。自宅で使っていたタンスやテレビを置き、出窓に花を飾っている方もいる。居室のドアには鍵が設置され、夜間鍵を掛けている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室や居室内の手すりの位置に配慮、洗面台も車椅子対応の鏡を備える等、工夫している。階段の段差の高さも配慮、敷地内を含め6箇所に監視カメラも設置している。		



目標達成計画

事業所名

グループホーム「人形町」

作成日

R2.3.26

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10 1 6	家族との交流の場が不足している 家族会の実施	新規のお祭りの 増設による 恒例の家族に 向けた行事の増加 を図る	年一回の同程度 家族会を開催する	3月～ 6月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。